

千葉県農業の持続的な発展に向けては、短期的にはコスト上昇分の円滑な価格転嫁が重要だが、中長期的には省エネルギー化や収益源の多角化、付加価値向上といった経営体質の強化が欠かせない。

26年4月に食料システム法が施行され、農業分野の価格形成慣行の見直しが進められている。同法は、生産者と卸売・小売業者間の価格協議を制度的に後押しし、従来の生産者の弱い立場の是正を図るものである(図表1)。関係者の協議を通じて原材料費やエネルギー、人件費などのコスト上昇を価格に反映させる枠組みを整備し、価格形成の透明化や協議の実効性確保を通じて、持続可能な供給体制の構築を目指す。

同法が整備された背景には、近年の生産コストの上昇がある。為替円安などを受け、燃料や肥料などの生産資材価格は全国的に上昇基調が続いてきたが、今後は中東情勢の緊迫化の影響からその傾向が強まる可能性がある(図表2)。とりわけ施設園芸分野は、外部資材への依存度が高く、コスト上昇の影響が顕著である。農業物価統計(26年2月、20年=100)によれば、重油(152.1)、肥料(143.8)などエネルギー・資材関連の上昇が際立っている。一方、施設園芸の主な作物であるトマト(106.3)、キュウリ(122.6)などの販売価格の伸びは限定的であり、コスト転嫁の遅れが収益性を圧迫している状況がうかがえる。

こうした傾向は、千葉県においても例外ではない。本県は、首都圏近郊という立地を背景に、農業産出額に占める野菜・果実・花きの割合が全国平均を上回るなど、園芸中心の農業構造を有する(図表3)。また、施設園芸作物の栽培面積が全国上位であり、資材価格変動の影響を受けやすい特性を持つ。このため、足もとの資材価格高騰は県内農業経営に相対的に大きな負担となっており、今回施行された食料システム法の実効性が経営の安定性を大きく左右する可能性がある。

こうしたなか、県内では外部環境に左右されにくい「稼げる農業」への転換に向けた取り組みも進展している(図表4)。26年3月には、エネルギーコストの抑制や収益源の多角化を図るため、千葉大学や千葉銀行などが連携し、ペロブスカイト太陽電池を活用した営農型太陽光発電の実証実験を開始した。また、6次産業化の一環として地域資源を活用したワイン生産や、海外市場の開拓に向けた県主導のプロモーション強化など、付加価値向上に向けた取り組みも広がっている。

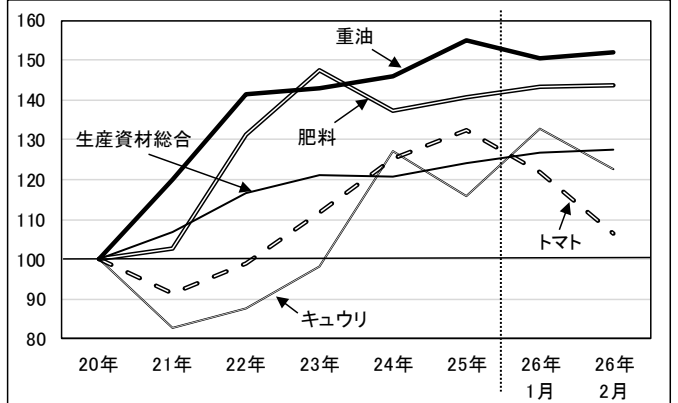
千葉県農業の持続的な発展に向けては、短期的にはコスト上昇分の円滑な価格転嫁が重要となるが、中長期的には省エネルギー化や収益源の多角化、付加価値向上といった経営体質の強化が欠かせない。制度対応と経営改革を両輪で進めることにより、外部環境の変動に左右されにくい安定的な農業経営の実現が期待される。(竹津)

【図表1】食料システム法の概要

- 食料全般を対象に、取引の適正化に関する努力義務が課される  
→努力義務: ①持続的な供給に要するコスト等の考慮を求める協議の申出に対して、誠実に対応  
②商慣習の見直しなど持続的な供給に資する取組提案に対して、検討・協力
- 努力義務に対応した行動規範として、農林水産大臣が判断基準を定め、指導・助言等の措置が講じられる
- 指定品目(米穀、野菜、飲用牛乳等)について、大臣が認定した団体がコスト指標を作成

(出所)農林水産省

【図表2】農業物価指数の推移



(注)25年、26年1~2月の数値は速報値

(出所)農林水産省

【図表3】都道府県別農業産出額 / 施設園芸作物の栽培面積

農業産出額				施設園芸作物の栽培面積		
順位	都道府県	産出額 (億円)	園芸作物 の割合 (%)	順位	都道府県	面積 (ha)
1位	北海道	14,817	17.4	1位	茨城県	7,091.0
2位	鹿児島県	5,689	16.9	2位	熊本県	3,677.6
3位	茨城県	5,494	40.8	3位	福岡県	3,442.5
4位	千葉県	4,533	38.5	4位	北海道	2,796.9
5位	青森県	4,119	48.9	5位	愛知県	2,519.5
	全国	108,200	36.1	6位	千葉県	2,123.0

(出所)農林水産省「令和6年生産農業所得統計」/「園芸用施設の設置等の状況(R6)」

【図表4】官民による「稼げる農業」への転換に向けた取り組み

主体	種類	取組内容
千葉大学、千葉銀行、積水ソーラーフィルム、TERRA、ひまわりグリーンエナジー	スマート農業	26年3月より、軽量で柔軟なペロブスカイト太陽電池を装備した発電設備を千葉大学柏の葉キャンパス内の水田に設置。実圃場での発電効率や農作物の成長環境などのデータを取得・検証する
トミオホールディングス	6次産業化	25年10月に、千葉市初の醸造所として、自社圃場で栽培したブドウや地元産の梨・リンゴを用いた醸造をスタート。収穫体験を通じたコミュニティ形成なども行っている
千葉県	輸出拡大	海外現地で「千葉県フェア」を開催し、県産農産物のPRを実施。26年2月には、米国(グアム)において切花のフェアが、カンボジアにおいていちごのフェアがそれぞれ開催された

(出所)各種資料をもとにちばぎん総研が作成